

モジュール2

虐待と子どもの心理

虐待の影響を考える基本的視点

- 虐待の始まった年齢、続いた期間、内容による違い
～ 幼い頃から始まったもの、長期に続いたもの、程度のひどかったものほど、影響は深刻
- 虐待の影響を考える3つの視点
 - － 虐待環境への当然の防衛反応
 - 理解はできるが過剰な言動
 - * 激しい不信、激しいやり場のない怒りと攻撃感情、愛への激しい飢え
 - － 虐待環境での特異的な学習
 - 理解しがたい逸脱した言動
 - * 通常の発達では見られない特異な心の働き
 - － 適切な学習機会の逸失
 - アンバランスなソーシャルスキル
 - * 精神発達上のアンバランスな遅れや偏り

虐待を受けた子どもの発達上のリスク

- 人間への信頼感を裏切られる
- 受け入れられる限度を超えた刺激に曝される
 - >> 自分の能力に対する適切な理解ができなくなる
- 情緒的にかかわりが不足又は欠如する
 - >> 不適切な方法により他者の関心を引こうとしたり、自己の存在価値を守ろうとする
 - * 攻撃と愛着の混乱した行動パターン
 - * パワーゲーム的な人間関係

- 周囲との間に不安定な関係を生じる
- 自己への評価が低下する



心の発達への影響

トラウマ

トラウマという概念の理解

- 「心のケガ(傷)」という比喻とトラウマの概念

※ 精神医学的な意味での「トラウマ」は、単に「心が傷つく」ことではない

トラウマの概念

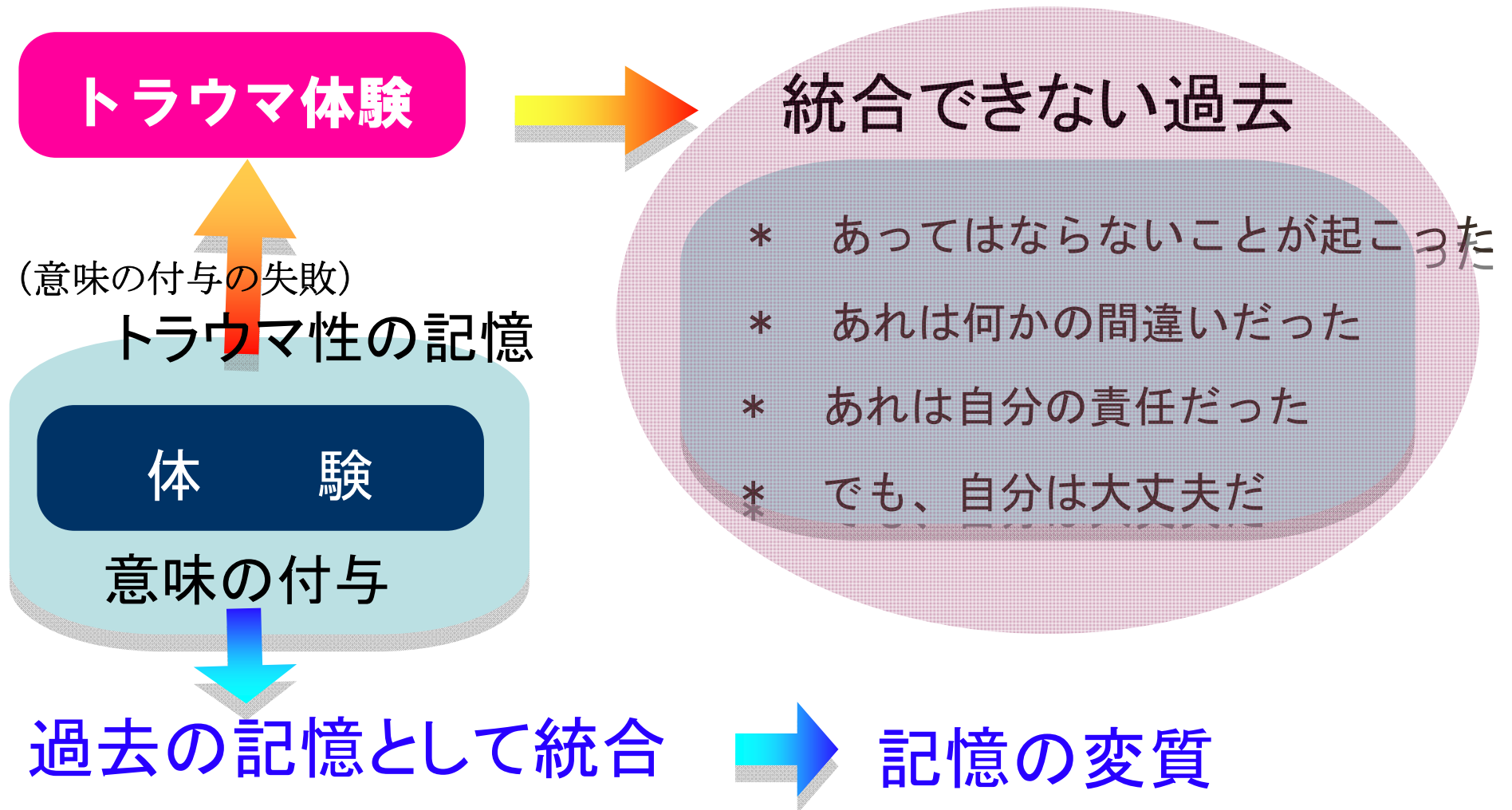
☆ 極度のストレス下では、記憶や意識に特殊な反応が起こる
(非常事態に対する緊急避難的な反応様式)

→ 強すぎる刺激や持続する非常事態では、反応の仕方が固定してしまう

≡トラウマ

【トラウマ】

トラウマ体験と人格形成

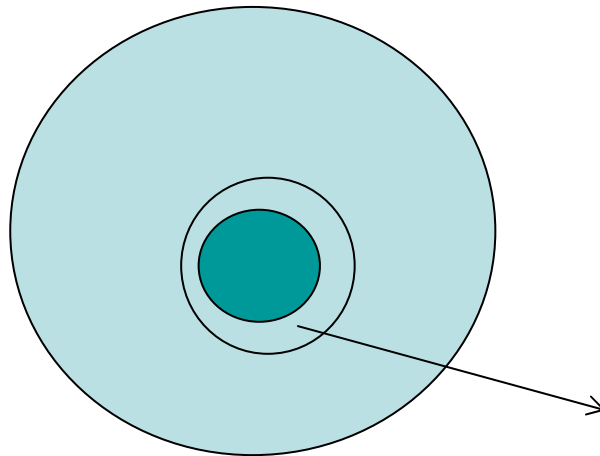


【トラウマ】

トラウマ体験

- トラウマは、心の中の「異物」(西澤 哲 1999)

意識



瞬間冷凍によって、意識の他の部分から切り離す

極度のストレスに対する反応

3つの反応

- ①意識の障害
～ 解離による症状
- ②記憶の障害
～フラッシュバック、侵入性思考
- ③覚醒水準の異常
～覚醒水準の低下／上昇

【 極度のストレスに対する反応 】

①意識の障害

解 離

解 離

意識、記憶、同一性、環境への知覚といった、通常ならば統合されているはずの機能が破綻している状態

※ 解離の状態にあっても、トラウマ体験の記憶は、なくなるわけではない（「ないことにされる」だけ）

【 極度のストレスに対する反応 】

①意識の障害

解離による症状

- ・ 授業中でも、空想世界の中に入り込んでしまう。
- ・ 先生から叱られたりすると目がうつろになり、あくびをしたり、意識がもうろうとしてくる。
- ・ 今までニコニコしていたかと思うと、突然目つきが変わるなど、人格状態が急激に変化することがしばしばある。

脳が目に見える器質的損傷を受けたわけではないが、
心身の統一が崩れて記憶や体験がバラバラになる

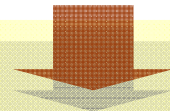
(杉山登志郎 2006)

【 極度のストレスに対する反応 】

②記憶の障害

フラッシュバック・侵入性思考

統合できない記憶



凍結した記憶の突然の「解凍」 → フラッシュバック

あり続けるトラウマからの干渉 → 侵入性思考

記憶のネットワーク化と「問題行動」の拡散

※ ト라우マによる傷はトゲの残った「刺し傷」

【 極度のストレスに対する反応 】

③覚醒水準の異常

覚醒水準の低下／上昇

- 虐待環境は覚醒水準の過剰な低下や上昇を子どもに学習させてしまう

* 覚醒水準の低下

～ 注意力や意欲の鈍さ、活動性の乏しさ、抑うつ傾向
など

* 覚醒水準の上昇

～ 過敏性、活動性の過剰さ、睡眠障害 など

PTSD(心的外傷後ストレス障害)

- 阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件で知られ始める
- もともとは「一回性のトラウマ体験」についての概念
- 今も研究され続けているテーマ

【 PTSD 】

PTSDという概念の骨格

○ ト라우マの再体験の繰り返し

○ 刺激の回避、全般的な反応性の低下

～ ト라우マに関連する刺激を避けようとしたり、全般的な刺激への反応性の低下が見られる

○ 持続的な覚醒亢進

～ いつも周囲の刺激に過剰な警戒をしている「覚醒亢進」の状態が続く

【 PTSD 】

PTSDの現れ

- ト라우マの再体験は、「思い出し」ではなく、
今まさにそのままの体験をしているということ。
〔 → 再体験を重ねても、慣れることはなく、
ますます頑なで歪んだ防衛反応が繰り返される。 〕

☆「刺激の回避・全般的な反応性の低下」がもたらすもの

～ 外への現れ方 ; 黙り込んでしまう、思い出せない など

～ 外からの見え方 ; 意欲がない、極端に無表情 など

☆「覚醒亢進」がもたらすもの (ADHDの現れとも類似)

～ 全方位に向けた過剰な警戒 → 結果的に無警戒と同じ

～ 刺激に対する過剰な驚き、興奮 → 注意の持続・集中が困難

反応性愛着障害

(乳幼児期からの被虐待児にしばしばみられる)

- 愛着は「人を信頼できる人生」の基盤

愛着障害

生後5歳未満までに親やその代理となる人と愛着関係がもてず、人格形成の基盤において適切な人間関係を作る能力の障害に至ったもの

- ※ 抑制型 — 他者に対して無関心を示すことが多い
- ※ 脱抑制型 — 他者に対して無差別的に薄い愛着を示す

虐待から生じるその他の問題

- 死 亡
- 身体的・知的なハンディ
- 人格形成における虐待の影響の固定化
～ 境界性人格障害、解離性同一性障害、転換性障害
など
- 食行動異常（摂食障害）

休眠効果という考え方

休眠効果 (sleeper effect)

子どもの時のトラウマの影響は、必ずしもすぐに出てくるとは限らない

- ※ すべての影響が出揃うのは大人になってから
- ※ とりあえず、マイナスの影響が出ていないからといって、将来的にも問題ないとは言い切れない

最後に

子ども理解のために・・・

- 子どもは突き動かされている
- 教職員の無理解が二次的障害にもつながる
- 教職員が救済者幻想 (Savior's Fantasy) に陥る危険性もある
- 教職員もトラウマを受ける